

『大正ロマン～なかのオペラ村物語』（2019 改補）

可知日出男（かちひでお。）作

出演：弁士、猫八、熊吉、サーベル山縣（お役人）

虎三（名主）、常八先生（小学校校長）

演奏：5～7名ぐらいのアンサンブル（3名ほどでも可能）

歌手：男女2～4人

浅草オペラに対抗して「中野オペラ村」を！！実に「文人村」もあった・・・

Classic から童謡・Jazz まで、ジャンルを超えた音楽を使い、人の差別を超える舞台～

『なかのオペラ団』の小屋建設に立ち上がる町人の物語。

N.時は大正中の頃、大正ロマンに酔いしれるお江戸東京・中野村の物語。

オペラ小屋建設を夢見る町の善人たち、あまり自由な表現がまかり通るの

は困りものと考えている官吏の人たち・・・

鍋屋横丁、青梅街道・・・新宿から20～30分も歩けば到着する庶民の街。

梅林・料亭・茶屋が並び、内藤新宿から発した唐辛子栽培が店先をにぎわ

す。人の好い猫八・熊吉のコンビが浅草の盛り場に出かけ、評判の「オペ

ラ」を見てきたところから、物語は始まる。

M1. 「恋は優し野辺の花よ」 ♪～

*猫八:いや～あのテノールは素晴らしかったなあ、田谷カ三って云ったかなあ、男前で立派な声で、ありゃカーソーも真っ青だな。

*熊吉:なんだお前、ずいぶん学があるね、カーソーなんて知っているんだ。女も良かったなあ、「芸術座」の松井須磨子もびっくりだ。

「元始（げんし）女性は太陽であった」なんて、平塚らいてう先生も言われたが、日本は天照大神（アマテラス～）の時代から、ご維新の時まで、あの伊藤博文さんだって女性に頭が上がらない。その女どもをたぶらかすのが、男前のテノールっていうわけさ。ワッカルカイ・・・？

M2.「女心の歌」（あるいは「"カルメン"のハバネラ」）♪～

N.猫八・熊吉の二人がなんだかんだ話しているところへ、名主の虎三が現れる。

*虎三:お方々、ずいぶん盛り上がっているじゃあないか、なんだい「浅草オペラ」で金龍館に行ってきたって??街中でオペラの歌を口ずさんで、すごい景気だって・・・

なんだいなんだい、この中野にも昔は「中野長者」なんていう、江戸一番の大金持ちがいたんだよ。浅草なんぞに負けちゃらんねえ。こちとらも“江戸っ子”の端くれ!!～この茶屋や料亭の構えをご覧よ。

どうだいどうだい、この中野村にも、立派な「オペラ小屋」をおっ立ててみねえか!??

*猫&熊 2人:え〜〜っ！！それはビックリ！！スンバラしいお話だけんど、
うるさ方のお上が何ていうかな〜??

*虎三:いやいや、ご維新の文明開化から富国強兵、お隣の清国にも勝って、
大国ロシアにも勝った。ご貴族様の時代から今や大正ロマン真っ盛り、我
ら町人の心意気を見せる時代になったんだ！「オペラ小屋」のひとつやふ
たつ・・・

海の向こうのメリケンじゃあ、ニューオーリンズから始まった「民の音
楽」が、“JAZZ”って名前になって、いろんなショーをやったり、ずいぶん
景気がいいって話じゃねえか！！

こちら「中野」は、「東京ど真ん中の、野っばら」だっちゅうんだ！！
浅草がクラシックなら、中野は、歌謡曲や JAZZ ・クラシックから日本古
来の曲まで、あらゆる種類の音楽を使って、「人間広場のオペレッタ」を
つくってやろうじゃないか??

どうでい×2・・・！！? (拍手〜！！)

N.ここで歌いますルのは、当時の浅草オペラの大スター、二村定一が歌っ
てヒットしたあの名曲、

M3.「君恋し」♪～

N.そこにお役人の、通称サーベル～山縣が登場した。

>フン!オペラ小屋を建てるだと!町人ごときが出しゃばりおって!人には

生まれながらにして、分相応、差別・区別があるもんだ。金持ちは金持ち、貧乏人は貧乏人。身分制度が終わっても、貴族は貴族、士族は士族、町人・商人は、一番下の身分なんだ！！

小学校の先生にも、困った人がいるんだ。「なかの小学校」の常八校長なんかは、そのいい例だ。みんな弁当を持ってきているのに、持ってこられない貧乏人に、炊き出しの「給食」とやらをわけてあげているのだ。まったくけしからん！！貧乏人をつけ上がらせてるだけじゃあねえか！？

M4. 「“こうもり”よりアデーレのアリア」 ♪～ジント的なワルツ (あるいは、「“Cats”～メモリー」)

N.常八先生が云う。

>江戸が東京に変わって50年余り。江戸も東京も、全国から集った人々の寄せ集まりでできている。ぎゅうぎゅう詰めの長屋住まいの知恵は、“袖すり合わすも他人の縁”と、傘を斜めにしてすれ違ったり、心和むように花を活けたり、お互いに助け合っているんだ。

俺たちはもともと、地方出身者の血と汗と涙でできた、“土”の上に立っているんじゃないのかな??

その大地の平等の上で、お前が下で俺が上だ！～などと差別したって、いいことはないよ。みんなが幸せになるために、教育はあるんだよ。

N.こんな考えが、サーベル～山縣には理解ができない。

>おまけに、ねんねこ半纏で来る、風呂にも入ってないような、小汚いオッカサンに、新聞紙なんかやって、「背中と子どもの間に入れとくと、温かくなっていいよ！」なんて、ふざけた親切をしている。不潔でたまらん！！病気が広がったらどうするんだ！！朝鮮人や部落民まで平等に扱おうなんて、まったく許せんことだ！！ブン！ブン！、ブンカブン、タイヨウカッカブン！！～月（・・・吾輩は分隊長閣下である！！）

>貧乏人は、「おれとおまえは枯れすすき、花の咲かない枯れすすき～♪」などと唄っていればいいんだ！！

N.常八は云う・・・

>すべての子どもの可能性を、もつともつと引き出してあげたいんだ！！
つらい時・哀しい時、月の光・星のまたたきを見つめてごらん。誰かがどこかで、君のことをきつと応援してくれているよ！！大きな声で、思いきり歌ってごらん～君じゃなきゃできない「夢」が、空いっぱい広がるはずだよ。

M5.「月光価千金」（あるいは「私の青空」）♪～

>そうそう海の向こうの自由詩人、ホイットマンは詠ったそうだ。

“わたしは人のことなら頭のとっぺんから足の指先まで、全てを歌う。

わたしにとって「奇跡」でないものは、何一つないのだから・・・”

M6. 「見果てぬ夢」 ♪～（あるいは「人よ」ホイトマン物語より）

情熱の詩人「みだれ髪」の与謝野晶子は詠う・・

“血を燃やすほどに熱く生きる君は、神にも勝る”

“柔肌の熱き血潮に触れもみで、道を説くかな哀れなる君・・”～と。

M7. 「ゴンドラの唄」 ♪～いのちみぢかし～

N.さて、中野村に「オペラ小屋」を建てる計画、町民たちの「夢」はどうなったのか??

鍋屋横丁の、町人・商家のみならず、地主・旧家・僧侶までが立ち上がり、土地の手配から寄付・勧請・申請まで、虎三を中心に猫八、熊吉、常八先生も加わって、まとまりかけていた。建設着手まで、あと一歩だった。

しかし、この動きをやっかむ者がいた。“この世の半分は嫉妬でできている”

国に危険をもたらす「無政府主義」の疑いがあるとして、“視学（今の教育委員会）”に常八校長を密告し、虎三たちにも、もっという商売があると、“密造酒づくり”を勧める。。

M8. 「“椿姫”～乾杯の歌」・・急に終わる。。

N.こんな時に起こったのが、歴史をひっくり返した《関東大震災》である！！

大正 12 年 9 月 1 日 11 時 58 分のお昼時。相模湾沖を震源として、関東
一帯の死者・行方不明者 10 万 5000 人。建物の被害は、全壊 13 万棟、
半壊 13 万棟、焼失 45 万棟。特に被害の大きかった東京では、建物の倒壊
が全戸の 6 割にも及び、火災などによる死者が 6 万人を越えた。

浅草のオペラ小屋も倒れ、高層 12 階も傾いた。街は崩れ、すべて廃墟と化
した。文豪・高山樗牛は「“枯れすすき”の歌とともに天災がやってきた
…」と嘆いた。

中野村は下町ほどではなかったが、家庭から出た火が燃え広がり、青梅街
道の多くが火の海となった。横浜などでは、火災の原因を他国の人に擦
（なす）り付け、戒厳令のもと、虐殺や私刑（リンチ殺人）が行われた。

N. 廃墟に残った人々・・・しかし、猫八も熊吉も、虎三も常八先生も負けな
かった。日ごろよく付き合っていた人たちが、ふだん拠点にしていた茶店
（ちゃや）や商家・広場や学校を、燃えあがる火から、身体を張って守っ
ていたのだった！！ …

一面の焼け野原の中で、残った食材や物資を集め、たき火が始まった。。

M9. 「たきびの歌」 ♪～ （上高田三丁目に“発祥の地”の歌碑あり）

・・・これがおれたちの、みんなを守る“炊き出しの歌”だ。

心に歌さえあれば、おれたちは絶対に立ち上がれる。上も下もなく、肩が
組める。

風呂にだって入れる、家だってまた建てられる。年配者を大切に、子ども
だって孫だって育てられる。

人種や身分を超えて、肩を組もうじゃないか！！心と心で、抱（いだ）き
あおうじゃないか！！？ おれたちは絶対にへこたれない、この勇気の歌
を歌いながら、再び生き直すんだ・・・！！

M10. 『復興・歓喜の第九：喜びの歌』 ♪～

1. めぐりあわせがわるいだなんて、

だれもおもっていないはず なんだ

こころのとびらを、たたいてごらん

*はれるやあかるい、ひかりがみえるよ (間奏)

2. つくってこわされて、またつくりゆく

ふりかえればいま、さくらがさくよ

どんなにないても、かまわないけど

*さいごのしょうりは、われらのえがお～

3. らららら～ どんなにないても、かまわないけど

さいごのしょうりは、われらのえがお～

さいごのしょうりは、みんなのえがお～♪ (*～繰り返し)

M10. エピローグ : When-You're-Smiling～♪～